

NEWSLETTER

No.71

7 January 2019

・2018年地理学教室の行事記録	・・・・・・1
・第18回地理ワークショップの開催	・・・・・・2
・2018年度国土館大学地理学会夏季巡検（鹿児島巡検）報告	・・・・・・3
・2018年度地理実習の記録	・・・・・・5
・卒業論文公開口頭試験について	・・・・・・9
・2018年度卒業論文公開口頭試験日程	・・・・10
・国土館大学地理学会費の納入について	・・・・12

【2018年地理学教室の行事記録】

2月 7日～ 9日	2017年度卒業論文公開口頭試験
2月 17日～ 18日	福島県農村実習（宮地）
2月 22日	国土館大学地理学会巡検（箱根方面：岡島）
3月 19日	学位記授与式
5月 12日	野外生物観察会（生田緑地：磯谷）
5月 23日～ 24日	地理学野外実習 A（1年生実習，川崎市麻生区黒川地区：専任教員全員）
6月 9日	国土館大学地理学会（10号館 10329教室） <総会> <講演会> 長沢利明先生（本学非常勤講師） 「民俗学からみた吉田松陰の墓」 <懇親会> 1号館 1階学生ラウンジ
7月 27日	9月卒業論文公開口頭試験（10号館 10215教室）
7月 28日	第18回社会科教員のための地理ワークショップ（6号館 6106教室） <テーマ> 「自然地理学の教え方ー気候・植生・土壌ー」 参加者 40名
8月 6日～ 10日	測量実習3（海津 優先生）
9月 10日～ 12日	国土館大学地理学会巡検（鹿児島・桜島方面：長谷川・加藤）
10月 2日～ 3日	地理学野外実習 B（2年生実習）
10月 23日～ 26日	地理学野外実習 C（3年生実習）
12月 22日	国土館大学地理学会（10号館 10329教室） <研究発表会> 矢田智康，松山友瞳，鈴木響太・沖元華奈・前野嘉章， 田口 遼，関口 翔，黛 隼人 <講演会> 佐々木明彦先生（国土館大学准教授） 「日本の高山帯の自然景観は脆弱なのか？」 <懇親会> 1号館 1階学生ラウンジ

【第18回地理ワークショップの開催】

テーマ：「自然地理の教え方Ⅱ－気候・植生・土壌－」

地理学教室では、大学の研究成果や教育の成果を社会・教育界へ還元するという主旨で、2001年度より「地理ワークショップ」を開催してきました。18回目となる今年度は、7月28日に世田谷校舎6号館6106教室で行われました。

今回のテーマは、「自然地理の教え方Ⅱ－気候・植生・土壌－」としました。前年度に行われた地形編の続編にあたります。この「自然地理の教え方シリーズ」は、以前より地理学が専門ではない先生方を中心に自然地理の内容が教えにくい、あるいは理解しにくいという声を耳にすることが多かったことに応じたものです。今回は、気候・植生・土壌の各分野について、大学教員の立場からの「社会科教師を目指す学生たちに向けての気候等の授業でどのような工夫をしているか」に重点をおいた講演の後、教育現場での実践について高校教員の立場から話題提供をいただいたうえで、参加者によるグループごとの情報交換・意見交換、全体討論を行う構成としていました。この日は台風12号の直撃により一部のプログラムを短縮して早めに終了せざるを得ませんでした。目標は概ね達成できたのではないかと考えています。参加者は40名でした。（磯谷達宏）

プログラム：7月28日（土）9：30～15：30

- 開会の言葉・趣旨説明・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・磯谷達宏
講演1 「これまでの気候学研究に基づいてどこまで地理学習が展開できるか？」
講演2 「児童生徒の気候認識を捉える現代的意義」・・・・・・・・・・澤田康徳（東京学芸大）
講演3 「気候分布と植生・土壌の配列」・・・・・・・・・・・・・・・・磯谷達宏
話題提供1 「気候学習の授業実践」・・・・・・・・・・・・・・・・日原高志（都立武蔵野北高校）
話題提供2 「地理教育における気候学習の意義と目的－「地理総合」「地理探究」を
視野に入れた授業実践を通して考える－」・・・・・・・・泉 貴久（専修大松戸高校）
全体討論・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・全参加者（司会：佐々木明彦）
まとめ・閉会の言葉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・加藤幸治



写真1. 澤田先生の講演



写真2. 日原先生の講演



写真3. 泉先生の講演



写真4. 全体討論の様子

【2018年度国土館大学地理学会夏季巡検（鹿児島巡検）報告】

2018年度第1回目となる夏季巡検が、2018年9月10日から9月12日までの3日間、鹿児島県鹿児島市で実施されました。参加学生は20名で、長谷川先生と加藤先生に引率をしていただきました。テーマは「桜島周辺の自然と幕末の史跡を訪ねる」でした。鹿児島県鹿児島市で桜島を中心とした鹿児島の自然や史跡のランドマークを地理学的視点から学びました。

日程：2018年9月10日（月）～9月12日（水） 《2泊3日》
 テーマ：「桜島周辺の自然と幕末の史跡を訪ねる」
 引率教員：長谷川均先生，加藤幸治先生
 集合：9月10日 12：00 鹿児島空港1階ロビー， 14：45 鹿児島中央駅前
 解散：9月12日 12：00 ホテルタイセイロビー

コース（移動手段：——バス，----徒歩，——路面電車，——フェリー）：

9月10日

鹿児島空港の展望台（霧島連山遠望）12：15-空港（昼食）13：00-鹿児島空港 13：10Dep. —— 14：08Arv. 鹿児島中央駅前 14：54Dep. ---- 14：20Arv. ホテルタイセイ 14：25Dep. —— 14：30Arv. 城山展望台 15：25Dep. ---- 17：00Arv. ドルフィンポート（夕食） 20：00Dep. —— 乗り換え —— 20：35Arv. ホテルタイセイ

9月11日

ホテルタイセイ 9：20Dep. —— 9：45Arv. 鹿児島本港 10：05Dep. —— 10：35Arv. 桜島港 11：01Dep. —— 11：25Arv. 埋没鳥居 11：15Dep. —— 12：30Arv. 火の島めぐみ館（昼食） 13：40Dep. ---- 13：50Arv. 桜島ビジターセンター 15：28Dep. —— 15：45Arv. 湯之平展望所 16：00Dep. —— 16：15Arv. 桜島港 16：30Dep. —— 17：00Arv. 鹿児島本港 17：05Dep. —— 17：11Arv. 天文館「むじゃき」（夕食） 19：20Dep. —— 18：40Arv. ホテルタイセイ

9月12日

ホテルタイセイ 9：20Dep. ---- 市内散策 ---- 9：35Arv. 鹿児島維新ふるさと館 10：45Dep. ---- 市内散策 ---- 11：35Arv. ホテルタイセイ

図1 巡検の行程表

飛行機利用者全員が鹿児島空港に到着した後、はじめに学生役員から鹿児島空港から見渡せる霧島連山についてその様子を遠望しながら学生役員からの説明を行い、長谷川先生と加藤先生からの補足説明をいただきました。鹿児島の雄大な火山の山並みを遠望したのち、各自空港内で昼食をとりました。鹿児島空港を後にし、リムジンバスに乗って鹿児島中央駅で新幹線利用者と合流しました。鹿児島市内を循環する観光バスに乗って城山公園へ向かい、城山公園で学生役員からの説明を行いました（写真1）。城山公園を後にしてドルフィンポートにて、学生役員から鹿児島湾の説明を行いました。ドルフィンポートの波止場を見学した後、複合施設内で夕食をとりました。



写真1 城山にて参加者集合写真



写真2 フェリーのデッキから桜島をみる

2日目には、宿泊施設出発後フェリーに乗って桜島へと向かいました(写真2)。まず始めに火山灰によって2メートル埋まった鳥居を見学しました(写真3)。鳥居を後にして桜島港近くの道の駅「火の島めぐみ館」にて昼食をとりました。鹿児島島の味を堪能したのち、桜島ビジターセンターにて桜島ビジターセンター所長であり火山博士の福島さんより桜島の専門的な説明を受けました(写真4)。ビジターセンターで桜島について深く知ることができたところで、実際に桜島4合目にあたる湯之平展望所に向かいました。湯之平展望所は一般の人が登ることができる最高地点です。途中下車もしながら、桜島の雄大さを感じました。その後、鹿児島港に戻り、鹿児島島の繁華街「天文館」にある「むじゃき」にて夕食を取りました。



写真3 2/3が火山灰で埋まった鳥居



写真4 桜島ビジターセンターにて桜島の歴史と自然環境を学ぶ

最終日は、学生役員から鹿児島中央の史跡の案内がありました。ツアーや観光では回ることのない街中の石碑を見学し、途中の鹿児島維新ふるさと館で休憩を兼ねたドラマ鑑賞、鹿児島の明治維新という激動の歴史を学びました。宿泊施設にもどり、解散式を行いました。

今回の巡検で私たちは鹿児島の自然を学ぶとともに紀行と風土を感じることができました。また、講義内では学ぶことができない五感を使った貴重な見学となりました。今回の巡検の参加者に、「火山とともに生きてきた鹿児島」について少しでも理解を深めてもらえていればと思います。今回の巡検の企画段階から親身に相談にのっていただいた長谷川先生と加藤先生、さらに現地でお世話になった方々に感謝します。ありがとうございました。

国土館大学地理学会 大内山颯士(行事部)
佐藤 佳弘(行事部)
根本 裕史(行事部)

※写真1, 4は長谷川先生撮影, 写真3は根本撮影, 写真2は大内山が撮影。

【2018年度地理実習の記録】

地理学野外実習A：5月23日（水）～5月24日（木）実施

◎ 長谷川・内田・岡島・磯谷・加藤・佐々木

実施地：川崎市麻生区黒川地区

参加学生数：81名（男子64名，女子17名）

テーマ：丘陵地の自然環境と人間生活

目的：映画「となりのトトロ」に描かれた丘陵地の自然環境と人間生活を参考に、多摩地区における丘陵地の土地利用に関する調査を行い、地形と土地利用の関係、都市化・宅地化の進行の特徴やその要因等について考察することを通じて、地理調査や地理的思考法の基本を体得する。

課題：図表を含めて400字詰め原稿10枚以上相当のレポート。
提出日時・・・7月10日（火）5限「地域調査法」の授業時



写真1. 多摩校舎に集合して実習開始



写真2. 雨の中で土地利用調査を頑張りました



写真3. 宿舎のホテルに到着



写真4. 夕食後は調査についてのミーティングです



写真5. 二日目は晴れて調査！



写真6. 再び多摩校舎にてまとめの講義

地理学野外実習B（2年生対象）：10月2日（火）～10月3日（水）実施

◎長谷川

実施地：神奈川県三浦市周辺（三浦半島南部と城ヶ島）
参加学生数：9名（男子8名，女子1名）
テーマ：この地域の特徴である海岸地形や地質を学ぶ
内容：この地域にみられる砂浜海岸や岩石海岸，タフオニの観察。関東大震災の際に隆起した海食台にみられる地形の観察方法を学んだ。また，海食台や岩石海岸で観察される特徴ある堆積構造，火山灰を観察した。この調査を通して砂浜海岸，岩石海岸のみかたを学んだ。
課題：調査結果に基づいて，A4版20～30枚のレポートの作成。



長谷川班：城ヶ島の海成段丘にみられるローム層の観察

◎内田

実施地：静岡県下田市，東伊豆町
参加学生数：5名（男子2名，女子3名）
テーマ：観光地の調査と観光地の場所イメージの解説
内容：①風景論の基礎，および風景の観賞方法について実習する。②「伊豆」のイメージあるいはそれに関係する種々のイメージが，観光資源としてどのように利用されているかを調査・考察する。
課題：レポート1：観光地としての「伊豆」の風景の特徴とその地域性について，レポート2：観光地の記号としての「伊豆のイメージ」



内田班：石廊崎先端にて

◎岡島

実施地：
参加学生数：参加学生数：7名（男子7名）
テーマ：近世城下町松本の近現代における変遷
内容：松本の歴史的町並みを中心とする地区における観察調査および住民への聞き取りによって，城下町の地域割りが近現代においていかに変遷したかを学習する。また松本城・松本市立博物館・総堀土塁遺構および湧水の見学を行い，歴史的町並みの調査結果に基づく地図を作成し，考察する。
課題：標記のテーマについて所定の分量のレポートを作成する。なお夏休みに事前学習を行っている。



岡島班：松本城下町旧総堀土塁について説明を聞く

◎磯谷

実施地：長野県白樺湖方面
参加学生数：7名（男子6名，女子1名）
テーマ：山地帯下部～上部の植生
内容：茅野市内から白樺湖周辺にかけての地域でみられる山地帯（温帯）下部～上部の植生（景観）について，組成・構造・動態・立地などの視点から調査した。当初は蓼科方面で実施する予定だったが，台風の影響で急遽，予定を変更した。
課題：指示された項目にしたがって，この地域の植生について図表を含めてA4版20枚程度のレポートにまとめる。



磯谷班：白樺湖畔での植生景観調査

◎加藤

- 実施地：東京都武蔵野市
参加学生数：12名（男子11名，女子1名）
テーマ：東京都武蔵野市におけるコンビニエンスストアの立地展開
内容：対象地域におけるコンビニエンスストアの立地について、過去のデータのデータと比較しながら、その変遷を把握し、立地の要因を考察する。仮説をいくつか立て、それを立証するための調査を行うようにする。これを通じて、経済地理学的方法・経済地理学の見方・考え方の基礎を学ぶ。
課題：調査結果に関する図表を作成し、調査結果にもとづいた内容についてレポートする。



◎佐々木

- 実施地：群馬県みなかみ町土合（天神平と湯檜曾川）
参加学生数：12名（男子9名，女子3名）
テーマ：多雪山地における地形と植生の観察，気温観測
内容：土合地区の湯檜曾川の谷底と天神平，および天神尾根の3地点において気温・湿度の定点観測を実施した。あわせて、ロープウェイを利用して標高ごとの気温の観測を実施した。これらにより気温の垂直分布を明らかにした。また，天神尾根や湯檜曾川の谷底では多雪地域の山地に典型的にみられる地形と植生景観を観察した。
課題：調査結果とそれにもとづく考察をA4版20枚程度のレポートにまとめる。



地理学野外実習C（3年生対象）：10月23日（火）～26日（金）実施

◎長谷川

- 実施地：福島県相馬市・松川浦周辺
参加学生数：6名（男子6名）
テーマ：班ごとにテーマを設定し，現地調査を行う
内容：海浜微地形と堆積物，津波被災後の景観変化，松川浦周辺における放射線量の分布
課題：現地で得たデータをもとに，A4版30枚程度レポートを作成するとともに，A0版のポスターを作成する。



◎内田

- 実施地：北九州市およびその周辺地域
参加学生数：9名（男子7名，女子2名）
テーマ：学生各自でテーマを設定し，現地調査を行う。
内容：北九州市における小倉北区と小倉南区のイメージの違い，福岡県北部と山口県下関市における観光客のイメージ，福岡市と北九州市の余暇行動権の広がりとその要因，飯塚市中心商店街来街者における購買行動，山口県における広島東洋カープと福岡ソフトバンクホークスのファンの分布，田川郡香春町における農村集落の再生事業，門司港における外国人観光客の土産物購入と受け入れ体制，コンテンツによる観光地としての巖流島の形成，など。
課題：各自設定したテーマにしたがって，現地で得たデータをもとに分析・考察を行う。



◎岡島

実施地：長野市および周辺地域

参加学生数：8名（男子8名，女子0名）

テーマ：歴史地理学・交通地理学等に関する地域調査

内容：整備新幹線開業による並行在来線地域への影響と変化，長野新幹線開業による佐久平駅周辺部の土地利用変化，新幹線開業による第三セクター鉄道の変化，地方ローカル私鉄の現状と課題，過疎地域の路線バスと町並みについて，観光地におけるコミュニティバスの役割，長野電鉄の廃止路線について，善光寺白馬電鉄について。

課題：各自のテーマについてのレポート作成。



岡島ゼミ：並行在来線しなの鉄道

◎磯谷

実施地：鹿児島県指宿市とその周辺

参加学生数：9名（男子5名，女子4名）

テーマ：薩摩半島南部の生態地理

内容：鹿児島県指宿市付近でみられる生態地理について，各自・各班が事前にテーマを設定して調査した。具体的に選ばれたテーマは，「雑木林の樹種構成」「河辺草原の種組成」「海岸草原の分布と組成」「スギの衰退現象」「河辺生鳥類の分布と生態」および「淡水湖における水質の分布」であった。

課題：図表を含めてA4版30枚程度のレポートにまとめる。



磯谷ゼミ：雑木林の調査風景

◎加藤

実施地：福岡県柳川市とその周辺

参加学生数：12名（男子10名，女子2名）

テーマ：各自が設定したテーマにもとづいた現地調査・地域調査を行う

内容例：柳川市における観光の現状，柳川市の宿泊施設，柳川商店街の現状と課題，柳川商店街来街者の買物行動，柳川ブランドの浸透程度とその課題，有明海における海苔養殖 他

課題：各自のテーマについて，『卒業論文の手引き』にもとづき，レポートをまとめる。



加藤ゼミ：お世話になった宿前にて

◎佐々木

実施地：広島県広島市と呉市

参加学生数：12名（男子10名，女子2名）

テーマ：呉市における気象観測と呉市および広島市における土砂移動現象の調査

内容：呉市のふたつの平野において，気温と湿度，風向風速を観測した。20カ所ほどの定点での観測のほか，定点のデータを補完すべく，班に分かれて気温と風向風速の移動観測を行った。この結果，呉市内における都市気候の実態を明らかにできた。また，地形調査班は，呉市内の3カ所でH30年豪雨によって生じた土石流の発生域や堆積域において，地形や堆積物を観察し，土石流発生メカニズムを考察した。3日目には広島市2014年豪雨災害の発生現場を，地理学教室OBである井元成治さん（アジア航測（株）勤務）の案内で見学し，居住地の立地と土石流被害の関係などを理解した。

課題：調査結果とそれにもとづく考察をA4版30枚程度のレポートにまとめる。



佐々木ゼミ：広島市安佐南区梅林駅にて井元さんの説明を聞く

【卒業論文公開口頭試験について】

地理学教室では、卒業論文の審査が公平になされるよう各々の論文を2名の教員が閲読し、さらに公開口頭試験の結果を加味して合否を決めています。今年度も下記の通り、卒業論文の口頭試験が行われ、試験の結果から卒論の評点が決まります。試験は、持ち時間9分の口頭発表とそれに続く質疑応答です。発表者はあらかじめ卒論の要旨、図表などをまとめたレジュメを用意し、出席者に配布できるよう準備してください。また、質疑応答の際に必要な卒業論文のコピー、その他卒論作成に使用した資料や参考文献のコピーなどは、必ず持参してください（公開口頭試験の際に提示を求められる場合があります）。これらは卒論の合否が決まるまで処分しないこと。

就職が決まり、試験当日に社内研修などが予定されている4年生は、就職予定先に事情を説明し、研修欠席の手続きを済ませておくようにしてください。

なお評価の結果、優秀な卒論2編は、全国地理学専攻卒論発表大会（2019年3月中旬・東京学芸大学）で発表してもらうこととなります。発表者は、2月8日中に決定し、すぐに通知します。

日 時：2019年2月6日（水）、7日（木）、8日（金）
場 所：世田谷校舎 10号館2階 10204教室（階段教室）

注意事項（4年生はよく読んでおくこと）：

※ 試験時間は、1人18分（発表9分、質疑応答9分）である。発表者は発表用原稿を必ず用意し、あらかじめ発表の練習をしておくこと。発表の内容はもちろん、発表の手際や発表の態度なども審査の対象となる。なお、発表時は予鈴7分、本鈴9分の合図があります。

※ 発表に際しては、かならず以下の要領でレジュメを用意しておくこと。レジュメはワープロによって作成することが望ましい。

1. レジュメは、論文題目、氏名、論文の要旨（目的・方法・結果を書く。字数が多くなりすぎないように、計800字程度を目安にするとよい）、説明に使用する図表によって構成する。
2. レジュメの枚数は、A3サイズで2枚横書き（図表を含む）とし、各自40部ずつ用意する（自費でコピー：図表がカラーでないと判別しにくい場合はカラーコピーをするか、口頭試験用に図表を白黒で描き直すこと）。
3. レジュメは、発表者交代の合間に次の発表者が配るものとする。その際、まず教員に配ること。
4. レジュメの文章を、そのまま読むような発表は控えること。口頭試験の発表用原稿を別に用意することが望ましい。

※ 発表では、パワーポイントも使用できる。使用するパソコンは原則として教室備え付けのパソコンを使用すること。発表用ファイルは、午前に発表の者は発表当日の朝、午後に発表のある者は昼休みにパソコンのデスクトップにコピーしておくこと。発表時にUSBメモリーを持参し、そこから起動して使用することもできるが、この場合は一連の作業を含めて発表時間となるので、発表時間が大幅に削られてしまう危険性がある。慣れていない者は、あらかじめ教室備え付けPCにコピーしておくことを奨める。

※ 地域調査士の資格取得へ向けて、一昨年から審査前事前請求制度が始まり、3月中に認定証を受け取ることができるようになりました。資格取得希望者は、1月末（以降）に日本地理学会資格専門委員会から郵送される書類を熟読し、同封されている申請書に必要な事項をすべて記入し（顔写真も必要）明記のうえ、口頭試験日程期間中に主査へ提出すること。その後、副査が記名・押印し、一括して返却する。この機会をのがすと「地域調査士認定委員会が指名する者の認定」が面倒なことになるので、卒業予定者は必ずこの機会に行うこと。

※ 3年生は卒論作成の参考のため、また来年の口頭試験のためにも、全員出席し、大半の発表を聞くようにすること。1、2年生もできるかぎり1日以上出席すること。2年生にとっては3年以降の専門分野（ゼミ）の選択する上で、もっとも参考になる行事なので、できる限り多くの発表を聞くことが自分のためにもなります。

※以下は、口頭試験のプログラムです。表中の「地調」は地域調査士資格、「GIS」はGIS学術士資格の取得希望者を示す。

【2018年度卒業論文公開口頭試験日程】

番号	氏名	題目	主査	副査	地調	GIS
2月6日(水) 10:50~12:05 <進行:磯谷>						
2	俣野 匠哉	地方鉄道における現状と課題 -北越急行を事例に-	岡島	佐々木	○	
3	高木 今日太	アニメ作品の舞台となった地域における住民意識の地域差 -京都府宇治市と静岡県沼津市を事例に-	内田	岡島		
4	石垣 直也	前橋城下町の歴史的変遷 -近世から明治期まで-	岡島	長谷川	○	
8	西原 崇太	瀬戸内海における観光客の行動様式 -直島と小豆島の比較-	内田	岡島	○	
12:50~15:25 <進行:佐々木>						
10	渡辺 翼	若者の一人旅への意識 -首都圏居住の大学生を事例に-	内田	加藤	○	
11	櫻井 晋悟	ライフストーリーからみる高齢者の居住地移動の特性 -茨城県常総市の老人ホームを事例に-	内田	加藤	○	
12	麻尾 一成	伊豆半島の内陸域と海岸域における二次林の樹種構成および群落構造の違い	磯谷	長谷川		
16	北川 広人	地方ローカル鉄道の利用実態と課題 -真岡鉄道真岡線を事例に-	岡島	内田	○	
18	片山 雄太	千葉県船橋市における非繁期のハシボソガラス・ハシブトガラスの分布・生態とその要因	磯谷	長谷川		
21	工藤 拓海	東京都世田谷区におけるスギ衰退の現状とその要因	磯谷	佐々木		
29	稲田 悠佑	地方都市の中心市街地の商店街の変容 -茨城県水戸市を事例として-	加藤	岡島		
30	根上 大希	富山県における北陸新幹線開業前後の変化	岡島	加藤		
15:40~17:50 <進行:岡島>						
31	川上 敏輝	港湾開発に伴う土地利用の変遷 -日本の6工業港を例に-	長谷川	磯谷	○	○
32	佐藤 諒英	2018年夏季における仙塩地区の気温分布	佐々木	磯谷		
33	中田 周誠	鴻巣市安養寺地区において見られる年中行事の実態	内田	加藤		
34	渡辺 聖輝	小学生のための地域安全マップの研究 -東京都足立区を例に-	長谷川	佐々木	○	○
35	木野 雄斗	ライフステージからみた女性の観光行動	内田	加藤		
36	山口 太一	立川市一番町における防災意識とその地域差	内田	佐々木		
37	吉岡 拓海	中小都市と大都市におけるヒートアイランドの比較 -我孫子市手賀沼を事例に-	佐々木	長谷川	○	
2月7日(木) 9:30~12:05 <進行:加藤>						
38	山口 治美	愛知県矢作川の中流域における河辺草原の種組成 -20年前のデータと比較して-	磯谷	長谷川	○	
39	長岡 渉	地方鉄道の現状と課題 -上毛電気鉄道を事例に-	岡島	内田	○	
41	和田 貴哉	路面電車とLRTの現状と考察 -富山ライトレールを例に-	岡島	佐々木		

45	山口 直紀	静岡平野における海陸風に伴う気温変化	佐々木	長谷川	○	○
52	矢口 翔太	地方鉄道の利用状況と利用者特性 －鹿島臨海鉄道大洗鹿島線を事例として－	岡島	内田	○	
56	佐藤 駿	明治期における利根川水運の動向 －境河岸を事例に－	岡島	内田		
59	上田 浩太郎	スキー場に潜む火山災害の危険性 －草津白根山と御嶽山を事例に－	長谷川	磯谷		
60	村上 輝正	東京都八王子市の山地・丘陵域における哺乳類ロードキルの発生とその環境要因	磯谷	長谷川		

12:50～15:25 <進行:佐々木>

64	大塚 健悟	映画のロケ地に関する研究	加藤	内田		
66	鈴木 駿聖	湖沼における砂嘴の発達と地形的特徴 －山梨県山中湖・福島県猪苗代湖を事例として－	長谷川	佐々木		
68	須藤 政人	等々力渓谷公園の利用形態とその特性	内田	磯谷	○	
75	狩野 将吾	池袋の「乙女ロード」におけるアニメ関連店舗利用者と地域の関係 －秋葉原と比較しながら－	内田	佐々木		
78	田口 勝利	城下町の歴史的変遷と地域構成 －浜松・小田原を事例に－	岡島	内田		
83	竹田 貴純	下北沢における古着屋の立地特性	加藤	長谷川		
84	斎藤 唯臣	歴史的町並み保全の継承と住民意識 －群馬県桐生市を事例に－	岡島	加藤	○	
85	山本 将大	埼玉県皆野町におけるイノシシ (<i>Sus scrofa</i>) 被害の現状とその要因	磯谷	長谷川		

15:40～18:10 <進行:内田>

87	大澤 むつき	三浦半島南部における海岸草原の種組成と分布 －とくにイズネシア型植物の生育状況に着目して－	磯谷	長谷川		
31	小池 紀之	鉄道の発達と地域産業の関わり －北海道道東地域を例に－	岡島	内田		
37	小澤 隼人	東京都町田市のコナラ二次林における優占種の樹冠拡大過程 －台風による落枝に着目して－	磯谷	長谷川		
39	稲野辺 翔	茨城県における局地的豪雨の地域的・地形的特徴について	佐々木	磯谷		
44	佐久間 航平	住民主体によるコミュニティ交通サービスの構築過程 －千葉県市原市を事例に－	岡島	加藤		
58	河野 哲也	川越城下町絵図のGIS分析	岡島	長谷川		○
63	本郷 啓富	宮城県南部の分布北限域における照葉樹が侵入した二次林・人工林の樹種構成とその立地環境	磯谷	佐々木		
65	竹内 優也	岩槻城下町の歴史的変遷と地域構造	岡島	長谷川		

2月8日(金) 9:30～12:05 <進行:磯谷>

7	佐々木 拓未	島根県石州瓦産地における地場産業の変化と産地維持	宮地	加藤		
13	齋藤 慎悟	市町村合併が高齢者福祉サービス事業へ与えた地域的影響 －新潟県上越市を事例として－	宮地	加藤		
17	齋藤 賢人	山形県鶴岡市における在来作物・だだちゃ豆の産地形成とその存続メカニズム	宮地	佐々木	○	
20	前田 桃子	NPO法人による地域づくりの展開 －特定非営利活動法人素材広場の取り組みを事例として－	宮地	加藤	○	
24	名倉 楓也	コンビニエンスストアの立地展開とその特徴 －静岡県を中心に－	宮地	加藤		

26	滝上 睦子	コンテンツ・ツーリズムによる地域振興 －「氷菓」の舞台・高山市を事例として－	宮地	内田	○
27	根本 鈴香	花き生産の現状と産地の盛衰	宮地	磯谷	○
28	鈴木 裕太	中山間地域等直接支払制度の活用実態と課題 －福島県鮫川村を事例に－	宮地	佐々木	

12:50～15:25 <進行:長谷川>

40	内田 成哉	スキー観光地における宿泊業の変化 －長野県野沢温泉村を事例として－	宮地	佐々木	
53	久保 秀平	地理的表示保護制度を活用した農業振興の実態と課題 －三島馬鈴薯を事例として－	宮地	加藤	○
55	永田 紗弥	東京都練馬区における観光農園の実態	宮地	磯谷	○
57	三浦 太助	宮城県気仙沼市における水産業の復旧・復興の実態 －東日本大震災後の取り組みから見た考察－	宮地	佐々木	
58	佐藤 日菜乃	東京都における地場農産物を活用した学校給食の実態と その地域背景	宮地	加藤	○
61	田邊 星里奈	三浦市における露地野菜産地の持続的存立基盤	宮地	加藤	○
63	水本 大智	都市近郊地域における農業体験農園の特徴 －千葉県流山市を事例に－	宮地	磯谷	○
76	赤井 廉能	関係人口の創出による地域活性化 －群馬県川場村の取り組みを事例として－	宮地	佐々木	○ ○

重要事項！必ず読むこと！

研究室，図書館から借りだしている書籍・備品は口頭試験の前（2月初旬）までに必ず返却して下さい。

4年生で未返却の者は，卒業資格を満たしていないとみなします。